

# 市民アンケート調査 報告書



平成 21 年度

南アルプス市総合政策部政策推進課



# 目次

第1章	調査の概要	1
1.	目的	1
2.	調査の内容	1
3.	調査仕様	1
4.	回収結果	2
5.	前3回の調査状況	2
6.	結果の活用	2
7.	報告書の見方	3
第2章	調査結果	4
I	基本属性	4
II	満足度の概観	8
III	実践度	15
IV	意識調査	16
V	基本政策・政策別の結果	18
	基本政策1 情報と連携の都市づくりについて	18
	1-1 行政改革の推進	18
	1-2 地域ネットワークの充実	19
	1-3 市民参加システムの構築	20
	1-4 国際交流・地域間交流の推進	21
	1-5 男女共同参画社会づくりの推進	21
	1-6 安全な環境づくり	22
	基本政策2 にぎわいと活力あふれる都市づくりについて	23
	2-1 商工業の振興	23
	2-2 農林水産業の振興	23
	2-3 地域資源を活かした観光の振興	24
	2-4 労働環境の整備	24
	基本政策3 うるおいと利便性のある都市づくりについて	25
	3-1 道路網の整備	25
	3-2 治水対策の河川等の整備	25
	3-3 都市空間の整備	26
	3-4 上下水道の整備	26
	3-5 市街地・住環境の整備	27
	3-6 公共交通の整備	27

基本政策4	快適で心のかよいあう都市づくりについて.....	28
4-1	社会福祉の充実.....	28
4-2	健康づくりの推進.....	28
4-3	自然環境の保全と活用.....	29
4-4	快適生活環境の整備.....	29
基本政策5	個性と文化を育む都市づくりについて.....	30
5-1	生涯学習ネットワークの整備充実.....	30
5-2	学校教育の充実.....	30
5-3	青少年の健全育成.....	31
5-4	文化づくりの推進.....	31
5-5	スポーツ・レクリエーションの振興.....	32





## 第1章 調査の概要

### 1. 目的

市役所で行っている事務事業や市民が利用した行政サービスに対して「どれだけ満足しているか」、日常市民の方々は「どんなことを実践しているのか」に「どんなことを感じているのか」の意識調査を加えることにより、市民ニーズを的確に把握し、行政資源の配分及び行政サービスの改善につなげるために実施するものである。

なお、調査項目について経年変化を把握（長期的な視点から分析）する必要があるため本調査を隔年で実施し、今回が4回目となる。

### 2. 調査の内容

設問分野	設問数	調査内容
回答者の属性	6	性別、年齢、家族構成、職業、居住する所在地区、居住年数
市民の満足度	63	市政に関すること
日頃の行動	28	市民は、日頃どのような行動を行っているか
意識・感じ方	20	市民は、日頃どのようなことを感じているか

### 3. 調査仕様

仕様項目	仕 様
調査地域	南アルプス市全域
調査対象者	市内に在住する18歳以上の男女
調査基準日	平成21年5月1日
標本数	1,500人
抽出方法	1,500人／層化無作為抽出法 市内を6地区*に分割し、基準日における各地区の人口（母集団）の大きさに応じ標本数を配分し、住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成21年5月20日から平成21年6月8日

\* 6地区とは、八田地区、白根地区、芦安地区、若草地区、櫛形地区、及び甲西地区である。

図表1 人口と発送数の内訳（単位：人、％）

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	櫛形地区	甲西地区	合計
人口	7,436	20,037	416	12,470	19,534	13,040	72,933
構成比	10.2	27.5	0.6	17.1	26.8	17.8	100.0
発送数	153	412	9	256	402	268	1,500
構成比	10.2	27.5	0.6	17.1	26.8	17.8	100.0

\* 人口は、平成21年5月1日現在

図表2 男女性比（単位：人、％）

	男性	女性
人数	36,020	36,913
男女性比	49.4	50.6

#### 4. 回収結果

有効回答 616件（回収率 41.1％）

図表3 回収数の内訳（単位：人、％）

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	櫛形地区	甲西地区	不明	合計
回収数	50	160	5	99	176	107	19	616
構成比	8.1	26.0	0.8	16.1	28.6	17.3	3.1	100.0
回収率	32.7	38.8	55.5	38.7	43.8	39.9	—	—

#### 5. 前3回の調査状況

	第1回	第2回	第3回
調査期間	平成15年10月6日 ～ 平成15年10月31日	平成17年9月7日 ～ 平成17年9月28日	平成19年9月25日 ～ 平成19年10月19日
標本数	2,000人	1,500人	1,500人
調査項目数	30項目	68項目	87項目
有効回答	859件	631件	670件
回収率	43.0%	42.1%	46.7%

#### 6. 結果の活用

- ① アルプスプランで設定したまちづくり指標を定量的に評価することで、政策マネジメントサイクル（PDCA）による進行管理をおこなう。



- ② まちづくりの達成度や投資した予算の効果が数字で把握でき、市民の視点に立った施策・事業等の選択の手段の一つとして活用する。
- ③ 継続的な観察による数値を公表することにより行政の透明性の向上や事業などの協働を市民と進める。
- ④ 社会環境や市民意向の変化に迅速に対応した実施計画を策定する。
- ⑤ 不満傾向が高い事象や実践度・意識調査の結果を顕著に受け止め、市民ニーズに対応するための事務事業を検討する。

#### 7. 報告書の見方

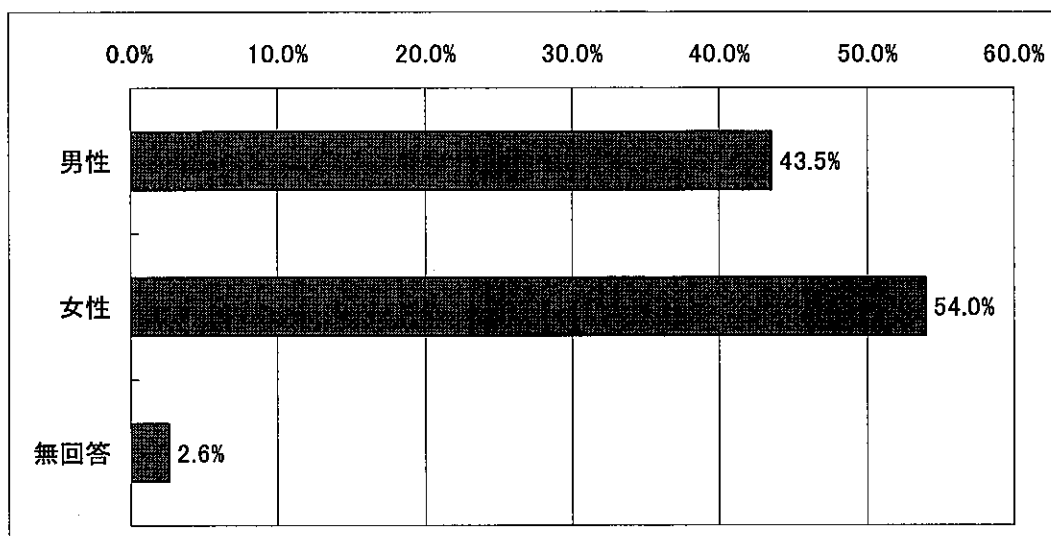
- ① 本文及び図表の百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入した結果、合計数値が100%にならない場合がある。
- ② 本文中の(n)は、回答者総数を示す。回答を得られなかった回答者は、(不明)として示した。
- ③ 本調査は、全ての項目がS A (Single Answer) で1項目1回答であるため、複数回答については無効とした。
- ④ 回答比率は(%)は、その質問の不明者を含む回答者数を基数(有効標本数 n = Number of case)として算出した。
- ⑤ 本文中の質問の選択肢については、長い文は簡略化してある。

## 第2章 調査結果

### I 基本属性

#### F1 性別

図表 I - 1 性別 (SA) n=617



#### [調査結果]

回答者に性別を尋ねたところ、「男性」は 43.3%、「女性」は 54.1%であった。なお、「無回答」が 2.6%あった。

平成 21 年 5 月 1 日現在の南アルプス市の人口における性別構成と比較すると、回収したアンケートの性別構成は、男性が 6.1 ポイント少なく、女性は 3.5 ポイント多い。

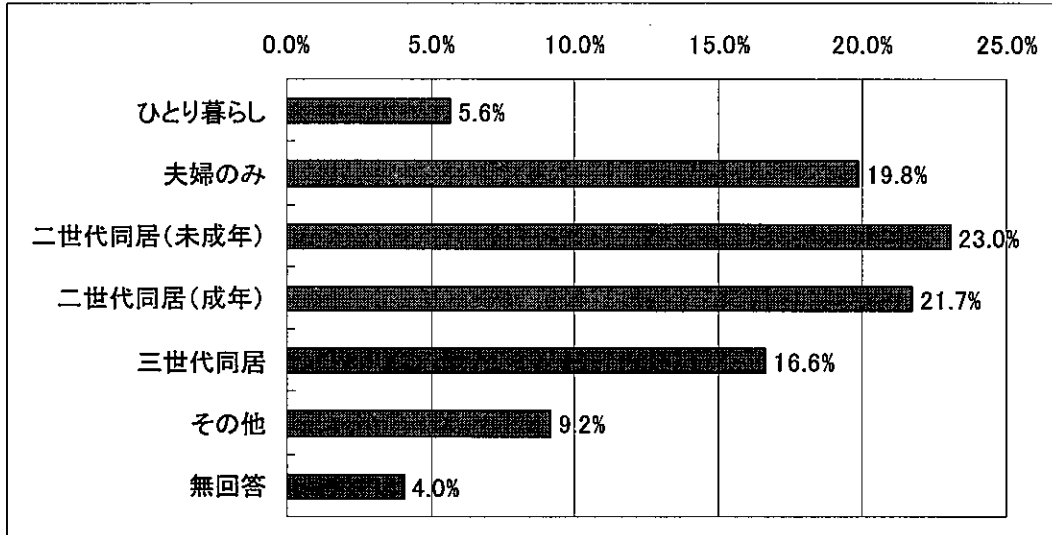
図表 I - 2 アンケート対象者と回収数における性別構成 (単位: %、ポイント)

	人口構成 (A)	回収数の構成	(A) との格差
男性	49.4	43.3	- 6.1
女性	50.6	54.1	3.5

\* 人口は、平成 21 年 5 月 1 日現在

F2 年齢

図表 I - 3 年齢 (SA) n = 617

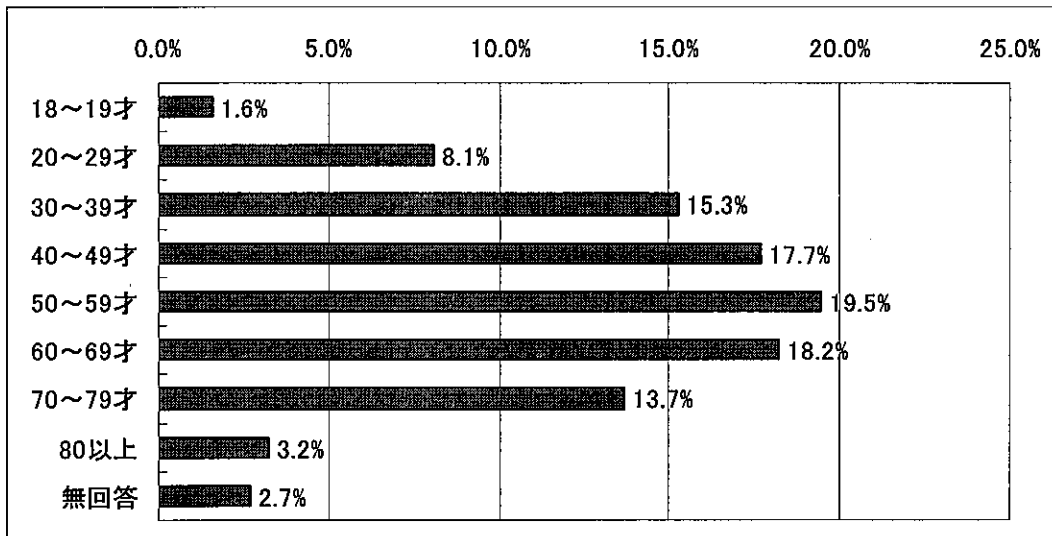


[調査結果]

回答者に年齢を尋ねたところ、全体では「50～59才」が19.5%と最も多く、次いで「60～69才」の18.3%、「40～49才」の17.8%、「30～39才」の15.2%、「70～79才」の13.6%、「20～29才」の7.9%、「80歳以上」の3.2%、「18～19才」の1.6%の順であった。なお、「無回答」が2.8%あった。

F3 家族構成

図表 I - 4 家族構成 (SA) n = 617

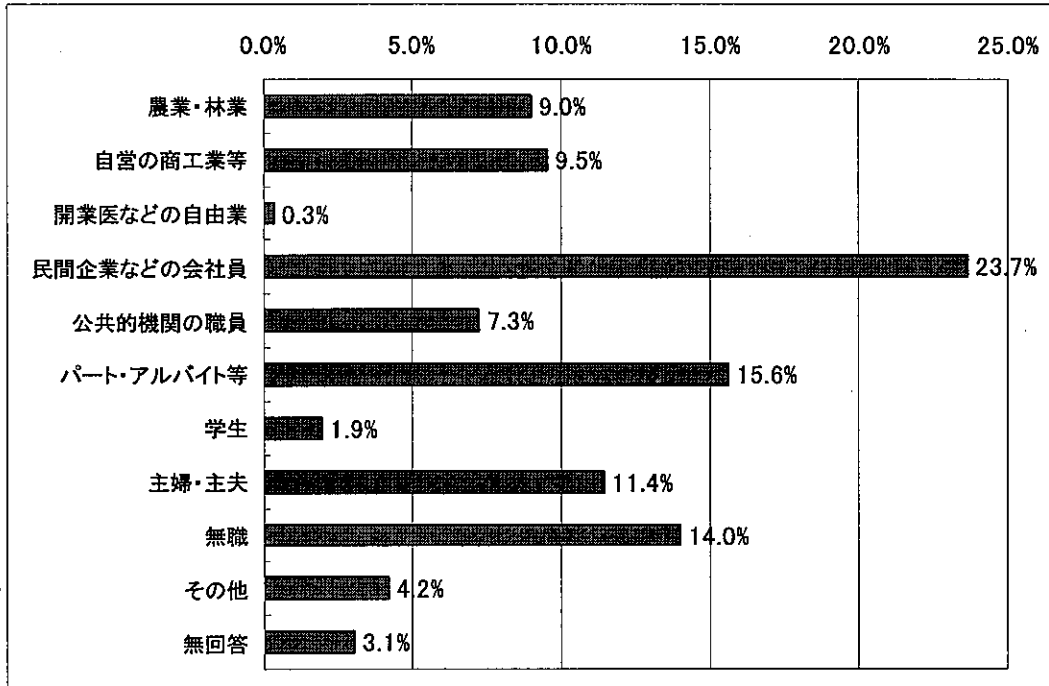


[調査結果]

回答者に家族構成を尋ねたところ、全体では「未成年の子との二世帯同居」が23.0%と最も多く、次いで「成年の子との二世帯同居」の21.7%、「夫婦のみ」の19.8%、「親と子と孫の三世帯同居」の16.5%、「その他」の9.2%、「ひとり暮らし」の5.7%の順であった。なお、「無回答」が4.1%あった。

F4 職業

図表 I - 5 職業 (SA) n=617

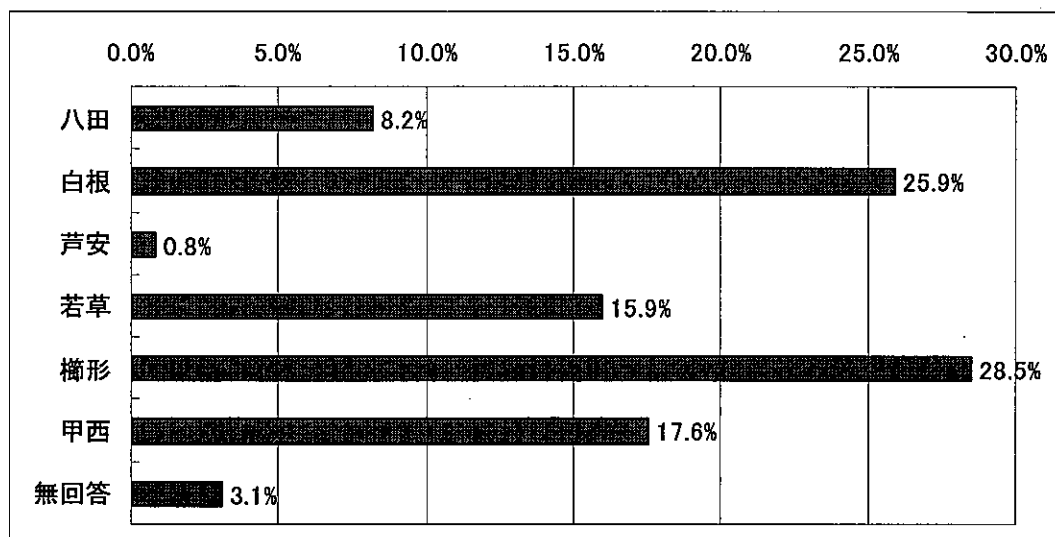


[調査結果]

回答者に職業を尋ねたところ、全体では「民間企業・事務所の会社員、従業員」が 23.7% と最も多く、次いで「パート・アルバイト・内職」の 15.7%、「無職」の 14.1%、「主婦、主夫」の 11.5%、「自営の商工サービス業」の 9.4%、「農業・林業」の 8.8%、「官公庁、学校、公社公団、農協などの公共的機関の職員」の 7.3%、「その他」の 4.2%、「学生」の 1.9%、「開業医、弁護士、税理士、僧侶などの自由業」の 0.3%の順であった。なお、「無回答」が 3.1%あった。

F5 居住地

図表 I - 6 居住地 (SA) n=617



[調査結果]

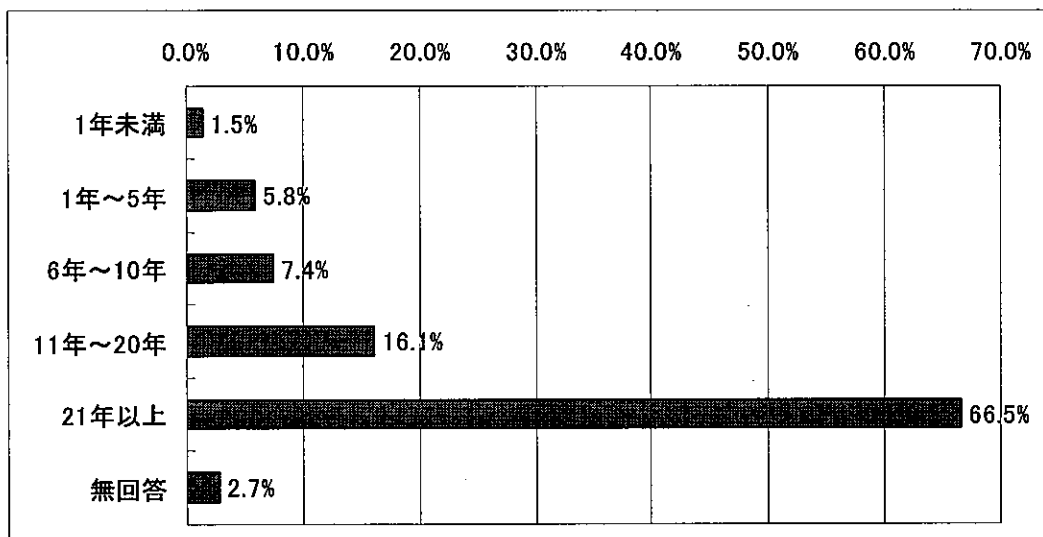
回答者に居住地を尋ねたところ、全体では「橿形地区」が 28.7%と最も多く、次いで「白根地区」の 25.9%、「甲西地区」の 17.3%、「若草地区」の 16.1%、「八田地区」の 8.1%、「芦安地区」の 0.8%の順であった。なお、「無回答」が 3.1%あった。

また、図表 I - 7 (居住区別人口) と比較しても、その割合は、概ね近似していた。

図表 I - 7 居住区別人口 (平成 21 年 5 月 1 日現在、単位：人、%)

	八田地区	白根地区	芦安地区	若草地区	橿形地区	甲西地区	合計
人口	7,436	20,037	416	12,470	19,534	13,040	72,933
構成比	10.2	27.5	0.6	17.1	26.8	17.8	100.0

F6 居住年数  
図表 I - 8 居住地 (SA) n=617



[調査結果]

回答者に南アルプス市における居住年数（合併前の旧町村分を通算する。）を尋ねたところ、全体では「21年以上」が66.57%と最も多く、次いで「11年～20年」の16.2%、「6年～10年」の7.5%、「1年～5年」の5.7%、「1年未満」の1.5%の順であった。なお、「無回答」が2.8%あった。

II 満足度の概観

1 満足度全般

(1) 満足度傾向と不満傾向の全体比較

各項目を「満足している」と「やや満足をしている」を合わせた『満足度傾向』と、「不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満傾向』に区分けして分析してみた。(図表II-1参照)

① 満足度傾向をみると、全63項目中で最も高いのが「広報南アルプスの内容」の58.9%で、次いで「南アルプス市の住みやすさ」の57.6%、「良質な水の確保や安定供給」の57.3%、「買い物の便利さ」の55.3%、「ごみの収集方法や収集回数」の51.3%の順で、この5項目が満足度傾向5割を超えていた。

一方、最も低かったのは、「就職の機会」が6.2%で、次いで「林業の振興」の7.9%、「高齢者や心身障害者の移動のしやすさ」の9.9%の順で、この3項目が満足度傾向1割未満であった。

② 不満傾向をみると、最も不満傾向が強いのが「バスなどの交通機関の便利さ」の60.5%で、この項目だけが6割を超えており、次いで「高齢者や心身障害者の移動のしやすさ」の46.8%、「就職の機会」の41.8%、「街路灯の設置などの防犯対策」の40.3%の順で、ここまでの4項目が不満傾向4割を超えていた。

一方、最も低かったのは、「広報南アルプスの内容」が6.5%で、次いで「学校施

設の整備」の 7.9%、「市のホームページの内容」の 8.7%の順でとなり、6項目が不満傾向 1割未満であった。

- ③ 満足傾向から不満傾向を減じてみると、満足傾向が上回っていたのは、63項目中 48項目で、最も差が大きかったのは「広報南アルプスの内容」の 52.4ポイント、次いで「良質な水の確保や安定供給」の 44.7ポイント、「南アルプス市の住みやすさ」の 44.3ポイント、「住まいの快適さ」の 35.8ポイントの順であった。
- 一方、不満傾向が満足傾向を上回った 15項目の中で、最も差が大きかったのが「バスなどの交通機関の便利さ」の△48.1ポイント、次いで「高齢者や心身障害者の移動のしやすさ」の△36.9ポイント、「就職の機会」の△35.6ポイント、「経済的に困っている人の支援」の△17.8ポイントの順であった。

- ④ 構成比にウェイトを付けるため評価点（5から1点）を乗じて加え、合計点（得点化）を出し、その平均値を 50点とする偏差値を算出した上で、8段階にランク付けした。

これをみると、最高ランクの『AAA』が付けられたのは、「広報南アルプスの内容」の 1項目だけで、次いで『AA』にランク付けされた「良質な水の確保や安定供給」、「南アルプス市の住みやすさ」についての順であった。

一方、最も評価が低い『EE』が付けられたのは、「バスなどの交通機関の便利さ」の 1項目だけで、次いで『E』にランク付けされた「高齢者や心身障害者の移動のしやすさ」、「就職の機会」についての順であった。

図表 II - 1 「満足傾向×不満傾向の比較」

(単位:%)							
No.	質問項目	満足傾向	不満傾向	満足-不満	得点	偏差値	評価
9	「広報南アルプス」の内容について	59.0	6.5	52.5	3.608	72.46	AAA
37	良質な水の確保や安定供給について	57.2	12.6	44.6	3.522	69.16	AA
39	南アルプス市の住みやすさについて	57.5	13.3	44.3	3.509	68.66	AA
51	住まいの快適さについて	48.5	12.8	35.7	3.383	63.82	A
23	買ひ物の便利さについて	55.3	24.2	31.1	3.377	63.59	A
56	図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさについて	45.4	10.2	35.2	3.358	62.86	A
59	学校施設の整備について	37.9	7.9	30.0	3.291	60.29	A
5	地区公会堂や集会所の利用のしやすさについて	42.6	15.9	26.8	3.284	60.02	A
1	市役所が行っている各種サービスの提供について	41.3	11.7	29.7	3.263	59.21	B
55	市役所、消防本部、企業局等の電話対応について	39.2	12.0	27.2	3.260	59.10	B
48	美しい自然環境の保全について	37.3	13.3	24.0	3.242	58.41	B
46	各種健康診断などの健康づくりについて	44.1	18.3	25.8	3.239	58.29	B
50	ごみの収集方法や収集回数について	51.2	29.0	22.2	3.231	57.99	B
53	市役所支所の利用のしやすさについて	40.0	17.5	22.5	3.195	56.60	B
58	保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育や教育内容について	33.1	10.1	23.0	3.192	56.49	B
54	市役所、消防本部、企業局等の窓口対応について	36.1	14.9	21.2	3.185	56.22	B
57	生涯学習教室や講座の開催について	32.7	9.4	23.3	3.181	56.07	B
7	ボランティアや自主活動グループなどの地域活動について	30.8	10.1	20.7	3.155	55.07	B
63	スポーツ教室や講座の開催について	29.8	11.4	18.5	3.144	54.65	B
61	文化財や伝統芸能(お祭りなど)の保護について	30.8	11.7	19.1	3.137	54.38	B
62	体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさについて	30.6	12.3	18.3	3.134	54.26	B
20	安全指導や啓発活動などの交通安全対策について	36.6	16.4	20.3	3.133	54.22	B
32	道路の整備について	45.5	29.7	15.9	3.116	53.57	B
17	災害時の防災安全対策について	35.0	18.3	16.7	3.108	53.26	B
10	有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容について	34.4	15.1	19.3	3.092	52.65	B
42	児童館などの園児や児童のための施設整備について	33.9	19.8	14.1	3.084	52.34	B
6	自治会やサークル活動などの地域活動について	28.9	14.1	14.8	3.083	52.30	B
30	公共温泉施設の利用のしやすさについて	37.4	23.7	13.8	3.074	51.96	B
8	地域のお祭りやイベントについて	33.1	21.9	11.2	3.065	51.61	B
35	街並み景観の美しさについて	34.5	22.5	12.0	3.054	51.19	B
11	市のホームページの内容について	28.0	8.8	19.3	3.053	51.15	B
33	河川や水路の整備について	38.6	27.4	11.2	3.047	50.92	B
49	地球環境問題への取組みについて	26.3	13.6	12.7	3.040	50.65	B
60	家庭や地域ぐるみの青少年教育について	24.0	12.3	11.7	3.035	50.46	B
18	防災行政無線について	32.9	20.4	12.5	3.027	50.15	B
16	男女共同参画社会実現に向けた活動の機会について	18.5	9.7	9.7	3.022	49.96	C
43	安心して子育てができる環境について	31.6	22.5	9.1	3.017	49.77	C
52	市役所本庁の利用のしやすさについて	31.3	23.7	7.6	3.006	49.35	C
12	住民参画への取組みについて	19.1	10.5	8.6	2.981	48.39	C
3	現在の生活や暮らしについて	38.3	31.8	6.5	2.979	48.31	C
21	法律や消費生活などの生活全般に関わる相談体制について	21.9	14.8	7.1	2.963	47.70	C
22	市役所のまちづくりへの総合的な取組み状況について	26.1	19.3	6.8	2.954	47.35	C
38	下水道などの生活排水施設の整備について	34.2	29.0	5.2	2.949	47.16	C
14	海外姉妹都市との国際交流活動について	16.4	9.6	6.8	2.931	46.47	C
36	道路沿いに設置された看板や表示板について	22.9	20.8	2.1	2.924	46.20	C
13	地域の自発的・主体的な活動への支援について	20.9	18.0	2.9	2.915	45.85	C
34	公園や子どもの遊び場について	33.9	30.6	3.2	2.914	45.81	C
29	特産品などのブランド化への取組みについて	22.9	21.9	1.0	2.897	45.16	C
47	救急医療体制について	24.5	26.4	-2.0	2.872	44.20	C
15	地域に住む外国人との共生への取組みについて	10.2	13.1	-2.9	2.820	42.21	C
4	行政改革への取組みについて	20.3	25.0	-4.7	2.807	41.71	C
19	街路灯の設置などの防犯対策について	33.6	40.2	-6.6	2.799	41.40	C
44	高齢者や心身障害者などへの支援について	20.9	30.3	-9.4	2.790	41.05	C
24	商業の振興について	17.8	29.7	-11.8	2.766	40.13	C
26	農業の振興について	17.3	27.7	-10.4	2.765	40.09	C
28	観光の振興について	17.3	26.9	-9.6	2.743	39.25	D
25	工業の振興について	13.6	28.4	-14.8	2.729	38.71	D
2	合併後の市内他地区との一体感について	18.8	34.4	-14.6	2.717	38.25	D
27	林業の振興について	7.9	21.9	-13.9	2.700	37.60	D
45	経済的に困っている人の支援について	10.1	27.9	-17.8	2.650	35.68	D
31	就職の機会について	6.2	41.8	-35.7	2.407	26.35	E
41	高齢者や心身障害者の移動のしやすさについて	9.9	46.8	-37.0	2.368	24.85	E
40	バスなどの交通機関の便利さについて	12.5	60.5	-48.0	2.163	16.98	EE

評価点: 満足している・5点、やや満足している・4点、どちらともいえない・3点、やや不満である・2点、不満である・1点で算出

評価 偏差値70.00以上⇒AAA、65.00～69.99⇒AA、60.00～64.99⇒A、50.00～59.99⇒B  
40.00～49.99⇒C、30.00～39.99⇒D、20.00～29.99⇒E、20.00未満⇒EEの  
8段階でランク付け



⑤ 質問項目を政策体系に分け、満足傾向から不満傾向を減じた値をみると、満足傾向が全ての項目で上回ったのが、前回同様「個性と文化を育む都市づくり」だけであった。

しかし、前回と対比すると、満足傾向が不満傾向を上回った項目は増加していることから、着実に政策の効果が現われていると考えられるものの、依然として「にぎわいと活力あふれる都市づくり」の満足度は低いものであるため、施策や事業の見直しが求められる。(図表Ⅱ-2参照)

図表Ⅱ-2 政策別の比較(満足傾向-不満傾向)

(単位:件、%)

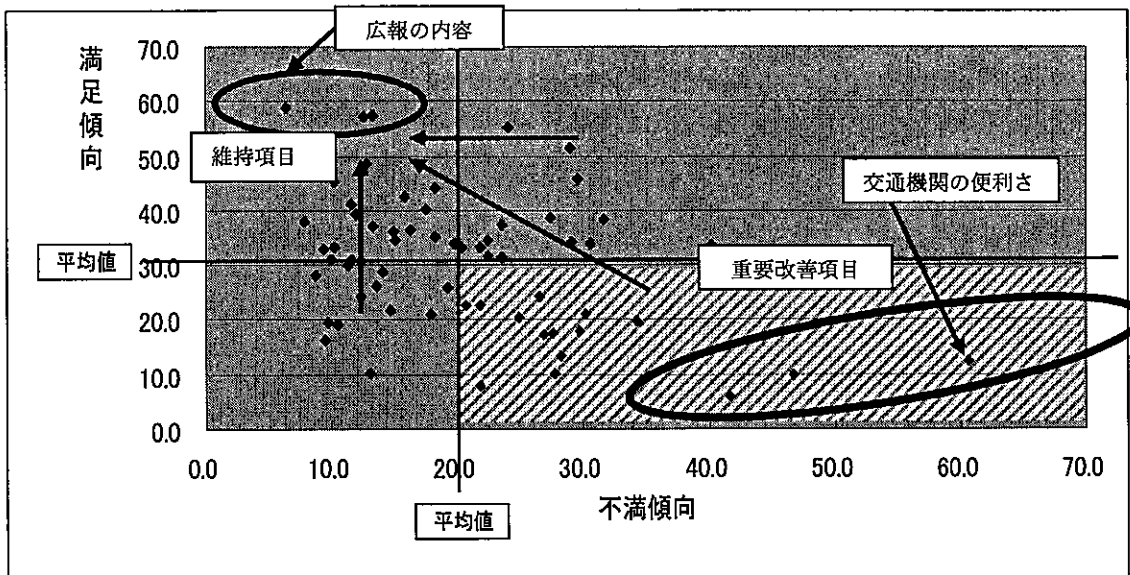
基本政策名	項目数 (a)	満足傾向が不満傾向を上回った項目数 (b)	割合 (b)/(a)
情報と連携の都市づくり	22	18	81.8
にぎわいと活力あふれる都市づくり	9	3	33.3
うるおいと利便性のある都市づくり	9	8	88.9
快適で心のかよいあう都市づくり	15	11	73.3
個性と文化を育む都市づくり	8	8	100.0
合計	63	48	76.2

⑥ 縦軸に『満足傾向』、横軸に『不満傾向』をとり、各項目を描画した。(図表Ⅱ-3参照)

- ・ 両傾向の平均値を基準にみると、4つの領域に分けることができる。これを見ると、最優先で改善(重点改善項目)しなければならないのが、満足傾向が低く且つ不満傾向が高い右下の網掛け内に描画されている15項目である。
- ・ これらの項目については、満足傾向が高く且つ不満傾向が低い好ましい状況である「広報南アルプスの内容」が描画されている左上のエリアに近づけていかなければならない。特に「バスなどの交通機関の便利さについて」「高齢者や心身障害者の移動のしやすさについて」「就職の機会について」は、満足傾向の増加と不満傾向の低減を進める必要があるが、満足傾向と不満傾向の関係が片方が上がれば片方が下がるといった単純な関係でないことから、まずは、どちらか一方の改善に努めるべきと考える。
- ・ また、右下のエリア以外の2つのエリアについても、左上のエリアに近づけるように推移に注目していかなければならない。

図表Ⅱ - 3 満足傾向×不満傾向

(単位：%)



(2) 時系列による比較

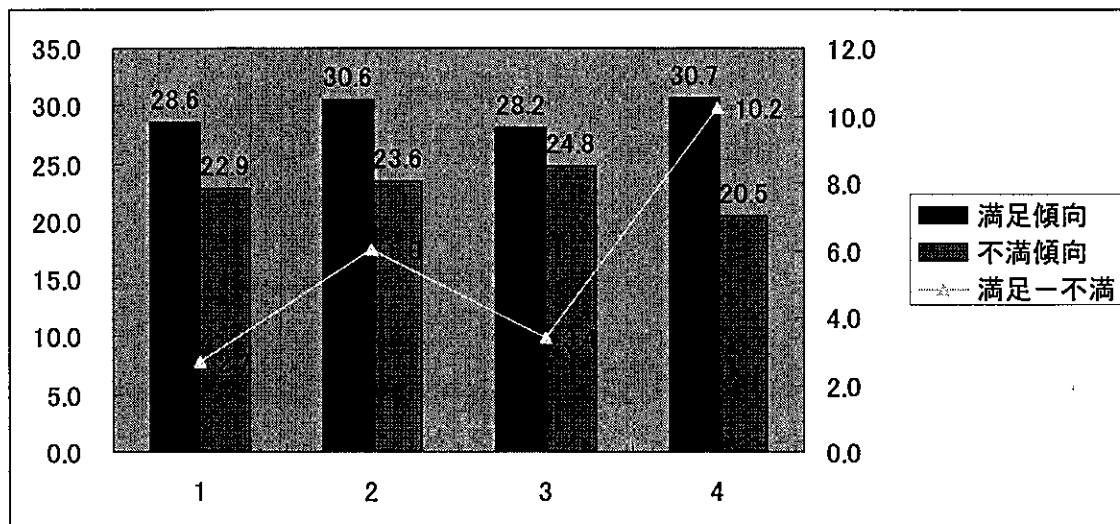
ア. 1回から4回までの比較

各項目を「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足傾向』と「不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満傾向』について比較した。(図表Ⅱ - 4 参照)

- ① 満足傾向についてみると、1回目から連続して「広報南アルプスの内容」が最も高い項目であった。逆に最も低い項目は、第1回目は「バスなどの交通機関の便利さ」であったが、調査項目を増やした2回目からは「就職の機会」となっている。
- ② 不満傾向についてみると、1回目から連続して「バスなどの交通機関の便利さ」が最も高い項目であった。逆に最も低い項目は、1回目から3回目までが「市のホームページの内容」で4回目は「広報南アルプスの内容」であった。
- ③ 「満足傾向」から「不満傾向」を減じてみると、満足傾向が上回り最も差が大きかった項目は、1回目から連続して「広報南アルプスの内容」であった。逆に不満傾向が上回り最も差が大きかった項目も1回目から連続して「バスなどの交通機関の便利さ」となっている。
- ④ 前回と比較して、最も望ましい状況である「満足傾向が増加し、不満傾向が減少している項目」は、63項目中54項目となり、8割以上を占めている。  
逆に、最も望ましくない状況である「満足傾向が減少し、不満傾向が増加している項目」は、「就職の機会」の1項目であった。
- ⑤ 平均値をみると、満足傾向は1回目が28.6%、2回目が30.6%、3回目が28.2%、今回が30.7%となり30%前後で推移している。また、不満傾向は1回目が22.9%、2回目が23.6%、3回目が24.8%と微増していたが、今回20.5%と初めて減少した。

図表Ⅱ - 5 平均値の推移

(単位：%)



総じて、過去の調査から通じて合併後 6 年が経過したが、市民の満足傾向及び不満傾向の項目は、ほとんど同じ項目が占めていることから、施策の方向性や事業内容と改善する必要がある。

図表Ⅱ-4 第1回から第4回調査までの比較

(単位:%)

No.	質問項目	第1回			第2回			第3回			第4回		
		満足傾向	不満傾向	満足 不満	満足傾向	不満傾向	満足 不満	満足傾向	不満傾向	満足 不満	満足傾向	不満傾向	満足 不満
1	市役所が行っている各種サービスの提供について			0.0			0.0	35.3	16.3	19.0	41.4	11.6	29.7
2	合併後の市内他地区との一体感について			0.0	21.3	30.3	-9.0	16.7	39.3	-22.6	19.9	34.3	-14.4
3	現在の生活や暮らしについて	45.6	17.6	28.0	39.9	29.8	10.1	35.3	34.1	1.2	38.5	31.7	6.8
4	行政改革への取組みについて			0.0			0.0	15.3	31.8	-16.5	20.4	24.9	-4.5
5	地区公会堂や集会所の利用のしやすさについて	41.3	14.7	26.6	41.5	18.7	22.8	42.0	21.1	20.9	42.7	15.8	26.8
6	自治会やサークル活動などの地域活動について	20.6	13.4	7.2	25.3	19.5	5.8	25.4	17.6	7.8	28.9	14.1	14.9
7	ボランティアや自主活動グループなどの地域活動について			0.0	26.7	12.6	14.1	26.9	14.3	12.6	30.9	10.0	20.8
8	地域のお祭りやイベントについて			0.0	36.5	22.5	14.0	32.1	30.6	1.5	33.1	21.8	11.3
9	「広報南アルプス」の内容について	54.4	11.1	43.3	56.7	10.5	46.2	57.3	8.7	48.6	59.0	6.5	52.5
10	有線放送テレビ(CATV)の行政番組の内容について	35.5	13.6	21.9	35.1	15.8	19.3	33.9	15.8	18.1	34.4	15.0	19.4
11	市のホームページの内容について	18.1	9.0	9.1	25.7	9.5	16.2	22.2	8.5	13.7	28.1	8.7	19.4
12	住民参画への取組みについて			0.0			0.0	15.7	15.5	0.2	19.2	10.5	8.7
13	地域の自発的・主体的な活動への支援について			0.0			0.0	17.3	20.6	-3.3	21.0	17.9	3.1
14	海外姉妹都市との国際交流活動について	15.3	9.2	6.1	17.3	11.6	5.7	15.1	9.7	5.4	16.3	9.5	6.8
15	地域に住む外国人との共生への取組みについて			0.0			0.0	7.0	15.9	-8.9	10.2	13.1	-2.9
16	男女共同参画社会実現に向けた活動の機会について	11.8	12.4	-0.6	14.7	14.0	0.7	13.4	15.1	-1.7	19.6	9.7	9.9
17	災害時の防災安全対策について	10.5	29.6	-19.1	27.9	30.4	-2.5	32.7	27.7	5.0	35.1	18.3	16.8
18	防災行政無線について			0.0			0.0	29.1	30.3	-1.2	33.1	20.4	12.8
19	街路灯の設置などの防犯対策について	18.1	48.9	-30.8	29.5	47.8	-18.3	31.2	44.8	-13.6	33.4	40.2	-6.8
20	安全指導や啓発活動などの交通安全対策について	21.2	18.5	2.7	37.0	20.0	17.0	37.2	20.5	16.7	36.5	16.3	20.2
21	法律や消費生活などの生活全般に関わる相談体制について			0.0	22.5	18.4	4.1	22.0	18.6	3.4	21.8	14.7	7.1
22	市役所のまちづくりへの総合的な取組み状況について			0.0	22.7	28.8	-6.1	21.6	23.4	-1.8	26.0	19.2	6.8
23	買い物の便利さについて	36.9	37.7	-0.8	54.7	25.8	28.9	55.4	29.2	26.2	55.4	24.1	31.3
24	商業の振興について			0.0	17.1	33.6	-16.5	16.9	38.3	-21.4	17.8	29.7	-12.0
25	工業の振興について			0.0	12.1	27.7	-15.6	13.3	32.1	-18.8	13.6	28.3	-14.7
26	農業の振興について			0.0	17.8	25.4	-7.6	15.5	32.8	-17.1	17.5	27.6	-10.2
27	林業の振興について			0.0	5.6	21.0	-15.4	7.0	25.0	-18.0	7.9	21.8	-13.9
28	観光の振興について			0.0	16.6	27.9	-11.3	15.8	34.0	-18.2	17.3	26.8	-9.5
29	特産品などのブランド化への取組みについて			0.0	15.7	27.4	-11.7	19.6	27.2	-7.6	22.8	21.8	1.0
30	公共温泉施設の利用のしやすさについて			0.0	46.0	24.1	21.9	39.5	26.2	13.3	37.5	23.6	13.9
31	就職の機会について			0.0	4.4	42.9	-38.5	6.3	41.8	-35.5	6.1	41.7	-35.5
32	道路の整備について	35.6	37.8	-2.2	40.7	31.0	9.7	44.0	33.8	10.2	45.7	29.6	16.2
33	河川や水路の整備について			0.0	30.2	34.1	-3.9	36.4	30.0	6.4	38.8	27.3	11.5
34	公園や子どもの遊び場について	30.4	36.2	-5.8	30.1	34.4	-4.3	30.6	34.8	-4.2	33.9	30.5	3.4
35	街並み景観の美しさについて			0.0	33.4	25.3	8.1	30.9	30.4	0.5	34.4	22.5	12.0
36	道路沿いに設置された看板や表示板について			0.0	20.8	30.7	-9.9	20.3	29.4	-9.1	22.8	20.7	2.1
37	良質な水の確保や安定供給について			0.0	52.5	16.5	36.0	51.4	18.8	32.6	57.4	12.6	44.8
38	下水道などの生活排水施設の整備について	22.3	41.3	-19.0	27.9	36.4	-8.5	27.2	36.0	-8.8	34.1	29.1	5.0
39	南アルプス市の住みやすさについて	52.6	11.7	40.9	51.7	17.2	34.5	52.3	17.5	34.8	57.7	13.3	44.4
40	バスなどの交通機関の便利さについて	10.1	61.5	-51.4	13.1	58.9	-45.8	11.9	66.3	-54.4	12.4	60.6	-48.1
41	高齢者や心身障害者の移動のしやすさについて			0.0			0.0	9.5	49.7	-40.2	9.9	46.7	-36.8
42	児童館などの園児や児童のための施設整備について	22.8	23.4	-0.6	28.5	23.6	4.9	33.9	21.5	12.4	33.8	19.7	14.1
43	安心して子育てができる環境について			0.0	22.3	30.6	-8.3	25.9	26.4	-0.5	31.5	22.5	9.0
44	高齢者や心身障害者などへの支援について	18.3	24.5	-6.2	25.5	31.0	-5.5	18.8	31.9	-13.1	21.0	30.2	-9.2
45	経済的に困っている人の支援について			0.0			0.0	8.4	29.0	-20.6	10.2	27.8	-17.6
46	各種健康診断などの健康づくりについて	44.1	11.9	32.2	48.6	13.9	34.7	47.2	16.7	30.5	44.3	18.3	26.0
47	救急医療体制について	23.2	25.9	-2.7	34.1	22.3	11.8	26.0	31.4	-5.4	24.4	26.5	-2.1
48	美しい自然環境の保全について			0.0	39.5	22.0	17.5	32.9	18.5	14.4	37.2	13.3	23.9
49	地球環境問題への取組みについて			0.0			0.0	20.0	24.4	-4.4	26.2	13.6	12.6
50	ごみの収集方法や収集回数について	42.3	29.2	13.1	48.5	31.7	16.8	49.3	30.9	18.4	51.4	28.9	22.5
51	住まいの快適さについて			0.0	49.0	17.6	31.4	46.1	16.4	29.7	48.6	12.8	35.9
52	市役所本庁の利用のしやすさについて	17.7	27.2	-9.5	21.3	34.6	-13.3	25.7	30.8	-5.1	31.2	23.6	7.6
53	市役所支所の利用のしやすさについて	35.1	18.7	16.4	38.7	20.7	18.0	37.3	19.8	17.5	40.2	17.5	22.8
54	市役所、消防本部、企業局等の窓口対応について	26.3	19.2	7.1	32.2	19.2	13.0	31.4	19.2	12.2	36.2	14.9	21.3
55	市役所、消防本部、企業局等の電話対応について	29.1	16.9	12.2	36.3	14.6	21.7	37.0	16.5	20.5	39.4	12.0	27.5
56	図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさについて	37.4	14.6	22.8	44.8	10.6	34.2	46.7	14.2	32.5	45.4	10.2	35.2
57	生涯学習教室や講座の開催について			0.0	34.5	12.2	22.3	32.1	11.3	20.8	32.8	9.4	23.4
58	保育園、幼稚園、小学校、中学校の保育や教育内容について	26.9	15.8	11.1	29.9	12.2	17.7	29.4	14.2	15.2	33.1	10.2	22.9
59	学校施設の整備について			0.0	33.8	12.4	21.4	33.1	11.3	21.8	38.1	7.9	30.2
60	家庭や地域ぐるみの青少年教育について			0.0	20.6	16.6	4.0	22.6	16.5	6.1	24.2	12.3	12.0
61	文化財や伝統芸能(お祭りなど)の保護について	28.8	11.2	17.6	30.6	15.7	14.9	27.8	17.0	10.8	30.9	11.6	19.2
62	体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさについて	24.5	24.4	0.1	30.0	17.4	12.6	28.7	16.4	12.3	30.7	12.3	18.4
63	スポーツ教室や講座の開催について			0.0	33.0	12.7	20.3	27.9	14.6	13.3	29.9	11.3	18.6
平均		28.6	22.9	2.7	30.6	23.6	6.0	28.2	24.8	3.4	30.7	20.5	10.2
SD		12.1	12.8	14.1	12.3	10.0	17.3	12.6	10.7	19.0	12.6	10.3	19.0

### Ⅲ 実践度

各項目を「実践（行動）している」と「どちらかという実践（行動）している」を合わせた『実行傾向』と「実践（行動）していない」と「どちらかという実践（行動）していない」を合わせた『非実行傾向』として比較した。

図表Ⅲ - 1 「実行傾向」 - 「非実行傾向」の比較

(単位：%)

No.	質問項目	実行傾向	非実行傾向	実行 - 非実行
64	地域コミュニティ(組など)への加入	67.2	20.0	47.2
69	隣近所での協力(いわゆる「向う三軒両隣」の範囲程度)	61.9	15.4	46.5
65	地域(コミュニティ)活動への参加	58.6	24.7	33.9
77	地元農産物の消費(地産地消)	47.0	17.9	29.1
76	地球環境保全への取り組み	40.7	19.1	21.7
79	緑の保全と緑化の推進	40.2	18.7	21.5
78	地元の商店街での買い物	48.6	29.6	19.1
70	地域ぐるみでの道徳教育(子供をしかる、声をかける等)	40.1	27.1	12.9
74	地震等の災害対策	32.5	31.0	1.5
66	地域(コミュニティ)活動の中心的・主体的な役割	28.9	35.2	-6.3
73	CATVの行政番組の視聴	33.0	39.9	-6.9
82	芸術や文化の鑑賞	29.4	36.7	-7.3
71	インターネットによる情報収集	34.3	41.8	-7.6
91	市営温泉の利用	36.8	44.6	-7.8
68	社会的な活動への参画(女性のみ回答)	12.6	23.4	-10.8
90	市営図書館の利用	32.3	51.9	-19.6
80	生涯学習活動	17.9	40.1	-22.1
81	芸術や文化活動	18.4	43.9	-25.5
92	市営スポーツ施設の利用	23.9	54.4	-30.5
67	自主的なボランティア活動	18.9	50.4	-31.5
72	市のホームページの閲覧	22.3	54.1	-31.8
83	市内の史跡探索や伝統芸能の体験	12.1	57.8	-45.7
89	市役所の窓口業務延長時間の利用(毎週水曜日午後7時まで実施中)	17.8	66.4	-48.6
75	防犯対策(防犯カメラの設置など)	10.2	61.1	-50.9
85	日常生活での外国人との付き合い	7.3	72.9	-65.6
86	市政への直接参加(行政委員への応募、懇談会への参加や提案等)	5.0	75.0	-70.0
88	路線バスの利用	8.9	80.6	-71.7
84	姉妹都市との交流事業への参加	3.7	78.4	-74.6
87	市の計画策定時への直接参加	3.7	81.3	-77.5

- ① 実行傾向をみると、全 29 項目中上位 3 項目が「地域コミュニティ（組など）への加入」「隣近所での協力」「地域（コミュニティ）活動への参加」となっており、自治会活動やコミュニティ活動が積極的に行われていると思われる。  
逆に、下位 3 項目は、「市の計画策定時への直接参加」「姉妹都市との交流事業への参加」「市政への直接参加（行政委員への応募、懇談会への参加や提案等）」となっており、市政と市民の協働という面では、まだまだ市民への浸透されていないようである。
- ② 非実行傾向をみると、「市の計画策定時への直接参加」「路線バスの利用」の 2 項目が 80%以上となっており、逆に、「隣近所での協力」「地元農産物の消費」「緑の保全と緑化の推進」などは、身近な事項なので実行していない者は、少ない結果となっている。
- ③ 「実行傾向」から「非実行傾向」を減じてみると、「実行傾向」が上回っていた項目は 9 項目で、「地域コミュニティ」「地産地消」「環境保全」など、身近な容易にできる事項となっていた。  
逆に、「非実行傾向」が「実行傾向」を上回っている項目は、「文化的な活動」「市政への参画」などに関係する項目となっていた。また、「防犯対策」が△50.9 ポイントとなっており、あまり取り組まれていない状況であるが、裏を返せば「本市の治安の良さ」を表しているともいえる。
- ④ 総じて、実行傾向が非実行傾向を上回っているのは 9 項目となり、実行傾向の平均値が 28.1 ポイントに対し非実行傾向の平均値が 44.6 ポイントと 1.5 倍ほど大きくなっている。  
また、「どちらでもない」と「無回答」の占める割合が全体の 3 割程度になることから明確な意思表示が行えなかった率も比較的多いと思われる。

#### IV 意識調査

今回の調査から、新たに「日頃の感じていること」という質問を 20 項目追加した。

これは、質問項目の 1~63 までに満足度に関する質問と似通う部分もあるが、満足度に対する質問内容の細かな部分について、市民の方々の意識を調査したものである。

質問に対する回答を「肯定系」「否定形」に分類すると図表Ⅳ-1のとおりとなる。

図表Ⅳ - 1 「肯定系」 - 「否定系」の比較

(単位：%)

No.	質問項目	肯定系	否定系	肯定-否定
111	市内の小・中学校は適性に配置されている。	56.5	9.9	46.7
108	「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の意味を理解している。	58.6	14.1	44.6
104	飲んでいる水道の「水」は、おいしい。	57.8	18.9	38.9
102	道路が整備されているため、移動時間が短縮された。	54.9	16.5	38.5
103	住んでいる地域は、水害の心配がない。	55.9	17.5	38.5
95	市の広報紙やホームページなどから必要な情報を得ることができる。	52.7	19.9	32.8
110	南アルプス市では、無秩序な開発が行われていない。	32.2	15.4	16.8
107	南アルプス市は、老後も安心して暮らせる。	37.8	22.0	15.8
109	南アルプス市は、安心して医療を受けることができる。	36.8	23.9	12.9
93	市の職員は、市民の声に耳を傾け仕事に取り組んでいるため、信頼できる。	38.0	26.2	11.8
99	仕事と生活のバランスが取れている。	37.0	25.4	11.6
112	スポーツ・レクリエーション活動が習慣化している。	32.5	21.0	11.5
101	市内の道路は、安全に車の運転ができる。	35.2	29.9	5.3
106	地域の福祉サービスが安心して受けられる。	23.4	25.4	-1.9
100	市内の道路は、安全に歩行できる。	29.9	37.0	-7.1
97	職場や地域で男女差別を感じている。	27.3	40.7	-13.4
94	自分は、地域(コミュニティ)の中で一役を担っている。	24.9	39.6	-14.7
96	家庭内において、男女差別を感じている。	18.7	52.7	-33.9
98	「夫は外で働き、妻は家庭に」という考えに同調できる。	16.8	51.5	-34.7
105	今後、移動手段としてバスなどの公共交通を利用する。	17.5	57.2	-39.7

- ① 図表Ⅳ - 1 をみると、意識(感じ方)が高い項目の上位には、「市内の小・中学校は適性に配置されている。」「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の意味を理解している。」「飲んでいる水道の「水」は、おいしい。」「道路が整備されているため、移動時間が短縮された。」「住んでいる地域は、水害の心配がない。」など市民生活に必要なハード部分への肯定的な意見が多い。
- ② 『男女共同参画』に関する質問「家庭内において、男女差別を感じている。」と「職場や地域で男女差別を感じている。」は、それぞれ否定的な回答が多かったが、“家庭内”については△33.9ポイントで“職場・地域”については△13.4ポイントとなり、家庭よりも地域・職場で男女差別を感じている市民が多いことを伺わせる。
- ③ 『バスなど公共施設』については、満足度において不満傾向が最も高く、実践度においても利用状況が低い回答となっているが、「今後、移動手段としてバスなどの公共交通を利用する。」に対する回答は△39.7ポイントと低く、この結果だけを見ると必要されていない状況である。

## V 基本政策・政策別の結果

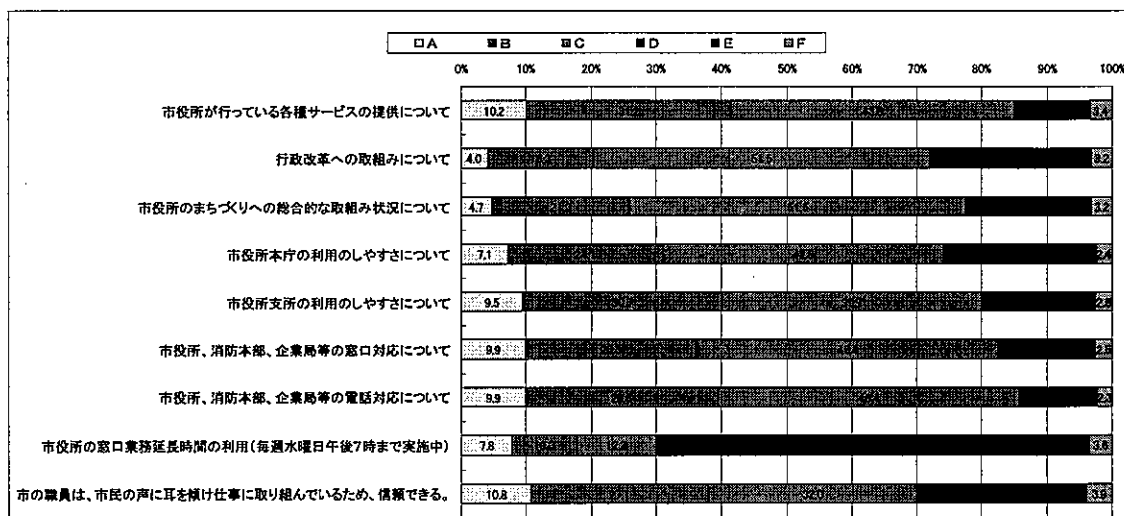
ここからの図表については、“満足している”“実践している”“感じている”など肯定的な回答をA：黄色、“やや満足している”“どちらかという実践している”“まあまあ思う”などやや肯定的な回答をB：橙色、“どちらともいえない”の中立的な回答をC：水色、“やや不満である”“どちらかという実践していない”“あまり思わない”などやや否定的な回答をD：桃色、“不満である”“実践していない”“思わない”など否定的な回答をE：赤色、無回答をF：灰色で表すこととする。

### 基本政策1 情報と連携の都市づくりについて

#### 1-1 行政改革の推進

図表V-1 行政改革の推進に関するアンケート結果

(単位：%)



『行政改革の推進』については、全体的には肯定的な回答が否定的な回答を上回っている。

「市役所が行っている各種サービスの提供」については、満足傾向が 41.4%で不満傾向 11.6%を大きく上回り、「本庁・支所の利用のしやすさ」「窓口や電話の対応」など、事務改善や組織改革の成果が表れた結果だと思われる。

ただし、「行政改革への取組み」についてだけは、満足傾向を不満傾向が上回った結果となったが、市民の目に見えない部分での取り組みが多く、質問自体も分りにくいためだと思われる。

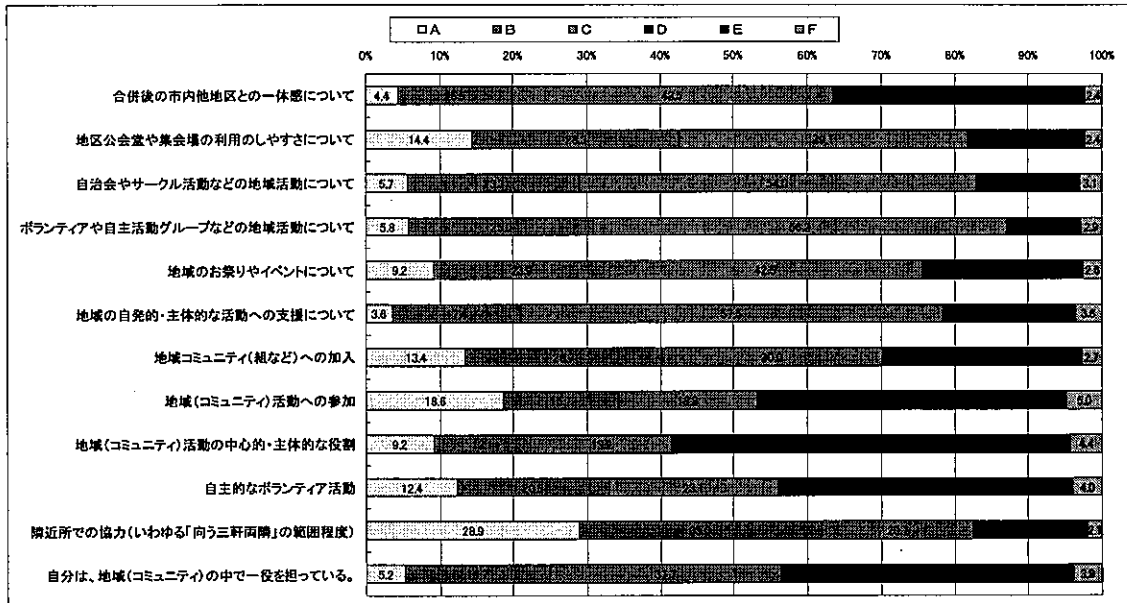
また、「市の職員は、市民の声に耳を傾け仕事に取り組んでいるため、信頼できる。」については、肯定的回答が 38.0%で否定的な回答の 26.2%を上回る結果となったが、4人に1人が職員を信頼できないとの結果であることから、職員資質の更なる向上に努めるべきである。



## 1-2 地域ネットワークの充実

図表V-2 地域ネットワークの充実に関するアンケート結果

(単位：%)



『地域ネットワークの充実』については、全体的には肯定的な回答が否定的な回答を上回っている。

地域・コミュニティ活動の基盤となる自治会等へは、約70%が加入していると回答した。この質問は、今回初めて問いかけた項目のため経年変化を見ることはできないが、年々減少傾向にある。

現在では、まだ、自治会等への加入率が高い数値のため、地域活動やコミュニティ活動への参加等についても肯定的な回答が否定的な回答を上回る結果となっている。しかし、「自主的なボランティア活動」「自分は、地域(コミュニティ)の中で一役を担っている。」の質問に対しては、肯定的な回答よりも否定的な回答が多く、リーダ的な人材が地域の中で固定されているものと思われる。

また、「合併後の市内他地区との一体感」については、合併後6年が経過しているが、不満傾向の回答が約34%を占めていることから、旧町村間の見えない壁が未だに残っている状況である。

この不満傾向の回答の内訳をみると図表V-2-1となる。芦安地区を除く5地区については、前回調査時よりも不満傾向が減少していることから今後も減少傾向が想定され、一体感は、徐々に醸成されるものと考えられる。

しかし、芦安地区については、前回調査時と同率で、しかも、不満傾向が60%と高い割合になっている。

これは、芦安地区が市内で唯一の『山村地域』『過疎地域』の指定を受けている特別な地域であることから、他の5地区との一体感が感じられないものと考えられる。

図表V - 2 - 1 合併後の市内他地区との一体感に関するアンケート結果

(単位：%)

地区	第4回調査結果	第3回調査結果	4回 - 3回
八田地区	42.0	64.3	△22.3
白根地区	32.0	46.8	△13.9
芦安地区	60.0	60.0	0.0
若草地区	27.3	32.2	△4.9
楨形地区	18.6	27.2	△8.6
甲西地区	26.9	31.6	△4.7

\* 図表5 - 2 - 1に表示している割合は、当該地区の不満傾向回答数を当該地区の有効回答数で除算したものである。

### 1 - 3 市民参加システムの構築

図表V - 3 市民参加システムの構築に関するアンケート結果

(単位：%)



『市民参加システムの構築』については、全体的には肯定的な回答を否定的な回答が上回っている。

項目ごとにとみると、「広報南アルプス・有線放送テレビ(CATV)・市のホームページ」の内容については、満足傾向が高くなっているが、実際に広報紙やCATVを見ている市民の割合は低い値となっている。

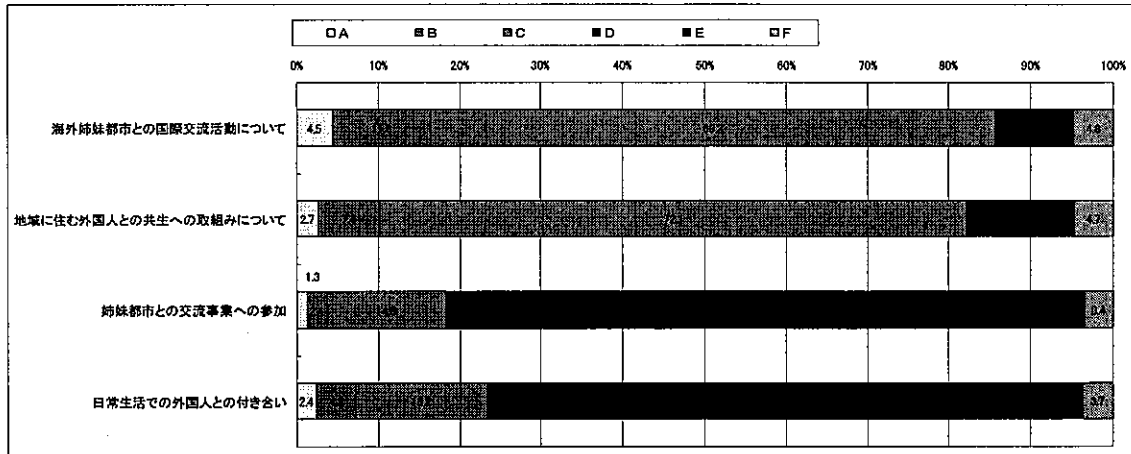
この結果、広報紙やCATVを見ている者にとっては、内容が満足されていることがわかる。

また、「市政への直接参加」「市の計画策定時への直接参加」については、両方とも低い値となっている。『委員の公募』や『パブリックコメント』など、市民が計画策定に参画できる機会を設けてはいるが、成果が表れない状況を考えると、『市民参加システムの構築』には、まだまだ時間が必要だと思われる。

### 1 - 4 国際交流・地域間交流の推進

図表V - 4 国際交流・地域間交流の推進に関するアンケート結果

(単位：%)



『国際交流・地域間交流の推進』については、満足度調査で「どちらともいえない」が回答の約7割を占め、実践度調査では、今まで実践した（行動した）と回答した市民の割合が1割未満となっている。

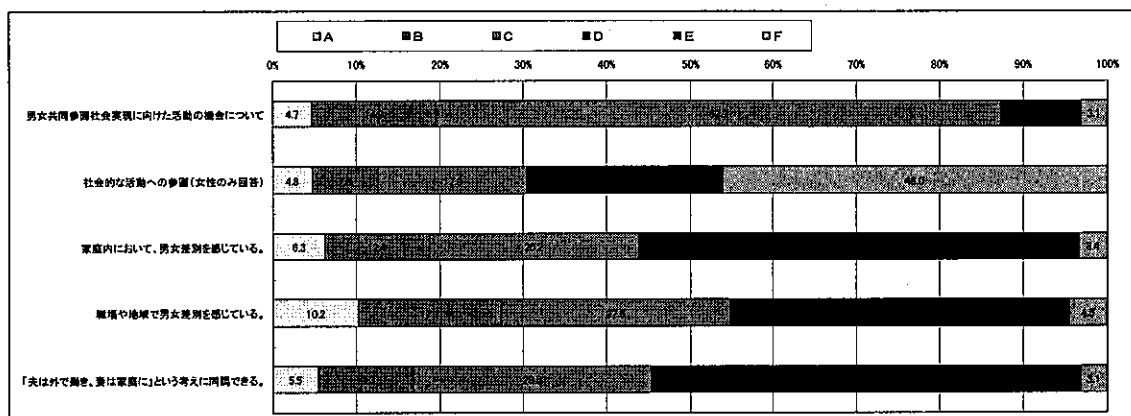
この結果を見ると、本市における国際交流は、市民の中において“関心がない”施策となり、関心がないから実践する市民が少ないと推察できる。

このため、“国際交流施策・事業”については、大きな見直しが必要とされていると思われる。

### 1 - 5 男女共同参画社会づくりの推進

図表V - 5 男女共同参画社会づくりの推進に関するアンケート結果

(単位：%)



『男女共同参画社会づくりの推進』については、満足度調査では「どちらともいえない」が回答の約7割を占め、実践度調査（対象者：女性）では、無回答が半数近くとなっている。

一方、家庭や職場で男女差別を感じていると回答した者の割合は、2～3割で、また、「“夫は外で働き、妻は家庭に”という考えに同調できる。」の設問で、“思う”“まあ

まあ思う”と回答した者の割合は、2割弱となっている。

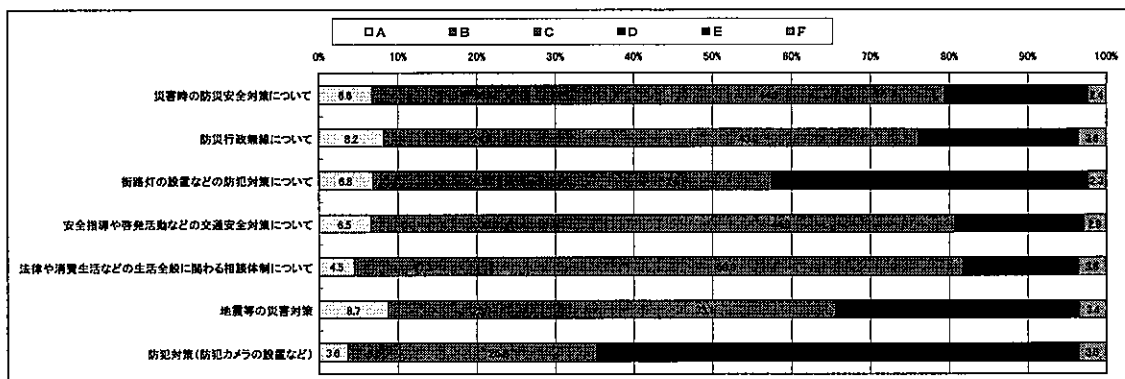
この結果を見ると、本市においては、男女共同参画社会づくりへの意識は低いものの、日常の中での男女差別は、少ないものと思われる。

また、女性の社会的な活動への参画状況は少なく、各種団体などの役員が固定化されているものと考えられる。

## 1-6 安全な環境づくり

図表V-6 安全な環境づくりに関するアンケート結果

(単位：%)



『安全な環境づくり』については、満足度調査で“防災対策”“交通安全対策”においては、満足度傾向が不満足傾向を大きく上回っている。防犯対策については、満足度傾向が不満足傾向を下回っているが、防犯対策の実践度については、実施していないと回答した市民が大部分を占めるネジレ現象が生じている

この結果をみると、防災対策については、小中学校の耐震補強工事の実施や防災拠点施設の整備などが実施され、交通安全対策についても、積極的な啓発活動により交通事故数が減少しているなど、その成果が目に見えることから肯定的な回答が多くなっているものとする。

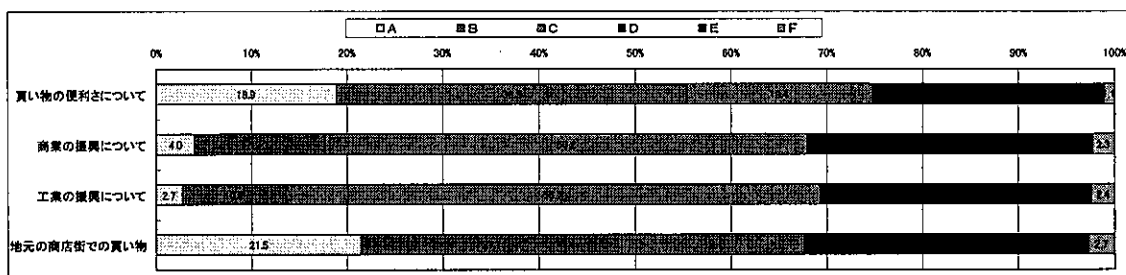
一方、防犯対策については、市民の感覚として「夜道が暗い」「犯罪が多くなっているよう」などの影響で不満足傾向が多くなっているが、防犯等の設置や青パトの巡回など防犯対策に取り組んでいるため、実際、被害にあった市民は少なく、このため、自らの防犯対策への取り組み状況が低い数値と推察する。

## 基本政策2 にぎわいと活力あふれる都市づくりについて

### 2 - 1 商工業の振興

図表V - 7 商工業の振興に関するアンケート結果

(単位：%)



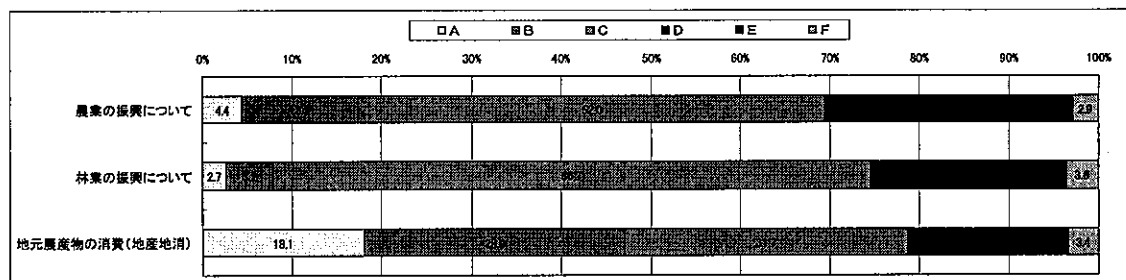
本市における“買い物の便利さ”の満足度や“地元の商店街での買い物”の実践度については、満足傾向や実践していると回答した市民の割合が約2分の1を占めている。これは、大型ショッピングセンターが進出し、身近な場所で必要なものが買い揃えることが可能になったことから、肯定的な意見が多くなったものと考えられる。

しかし、“商業の振興”や“工業の振興”については、厳しい経済情勢の中で決定的な改善策が講じられないことから、満足傾向の回答は少なくなっていると考えられる。

### 2 - 2 農林水産業の振興

図表V - 8 農林水産業の振興に関するアンケート結果

(単位：%)



本市における“農業の振興について”の満足度は、農産物の価格低迷や物資の高騰による農業所得の減少により満足傾向を不満足傾向が上回る結果となっている。

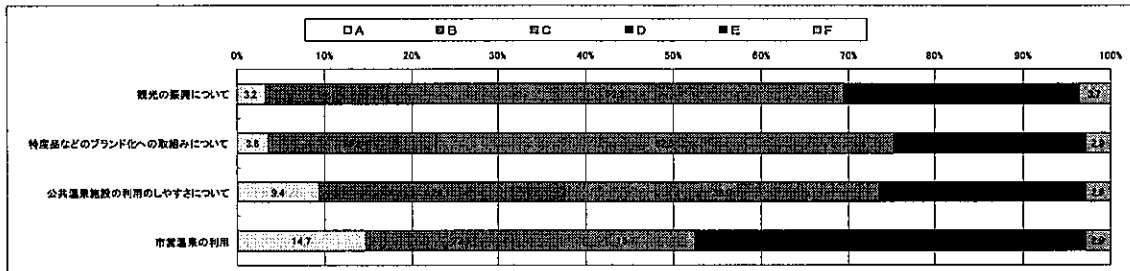
しかし、市民の「食の安心・安全」への関心は高く、地産地消を実践している割合は、47%と高くなっている。

また、“林業の振興について”の満足度は、10%未満となっているが、これは、本市における「林業」が産業として成り立っていないためであり、不満足傾向の回答は、山林の保全などに対する回答と思われる。

## 2-3 地域資源を活かした観光の振興

図表V-9 地域資源を活かした観光の振興に関するアンケート結果

(単位：%)



“観光の振興について”の満足度は、満足傾向が17.3%に対し不満傾向は26.8%となり、“ブランド化への取り組みについて”は、満足傾向が22.8%、不満傾向が21.8%となっている。

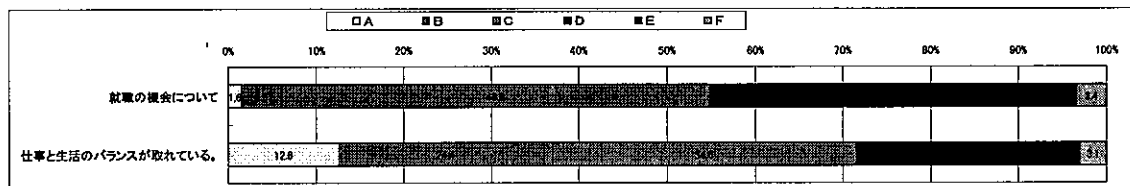
南アルプス連峰：北岳という大きな観光資源を有しているにもかかわらず、山岳観光の特殊性が一般的な観光業と結びつかないことから不満傾向が高くなり、また、特産の果実などにおいては、「南アルプス」よりも旧町村名の方が、未だにブランドとして強い部分があるため、満足傾向と不満傾向がほぼ同数となっているものと考えられる。

一方、“公共温泉施設の利用のしやすさ”に対する満足度や“温泉施設の利用”の実践度については、それぞれ肯定的な回答が36~37%とほぼ同数であることから3人に1人が温泉施設を利用し、利用者の大部分が利用しやすいと感じているものと推察する。

## 2-4 労働環境の整備

図表V-10 労働環境の整備に関するアンケート結果

(単位：%)



“就職の機会について”は、相変わらず満足傾向よりも不満傾向が大きく上回っている。

本市としては、優良企業の市内誘致に努め、これまでも市内に進出した企業があるものも、景気低迷による厳しい雇用状況の影響は大きく、なかなか市内での就労が叶わない状況であることが読み取れる。

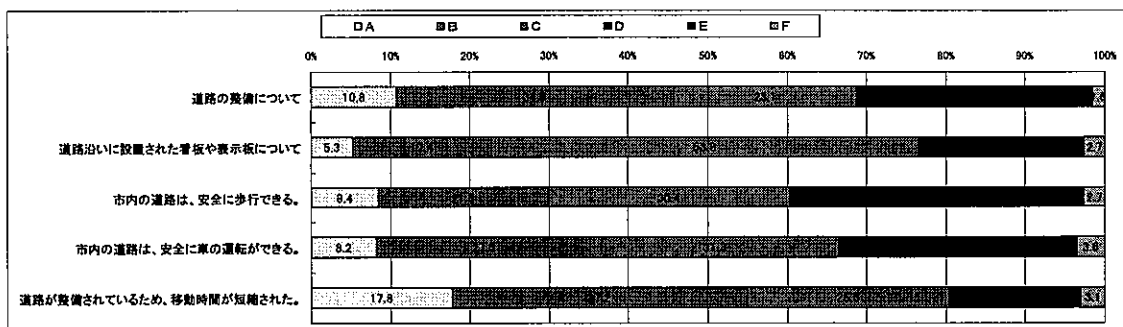
しかし、“仕事と生活のバランスが取れている”については、肯定系の回答が37.0%で、否定系の回答の25.4%を上回っている。この設問は、今回が初めてのため、今後の変動に注意したい。

### 基本政策3 うるおいと利便性のある都市づくりについて

#### 3-1 道路網の整備

図表V-11 道路網の整備に関するアンケート結果

(単位：%)



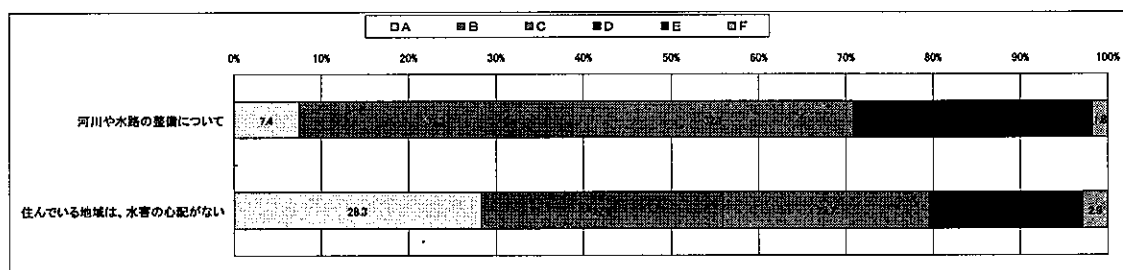
中部横断自動車道や新山梨環状道路の共用開始により“道路が整備されているため、移動時間が短縮された”と感じている回答は、55.0%と高く、これに比例して“道路の整備について”では満足傾向が45.7%と不満足傾向の29.6%を大きく上回っている。

道路網の整備は、着実に進んでいるが、実際に道路を利用する歩行者からみると、“市内の道路は、安全に歩行できる。”について肯定的な回答が29.9%に対し否定的な回答が37.0%となり、歩行者への配慮が不足しているものと推察する。

#### 3-2 治水対策の河川等の整備

図表V-12 治水対策の河川等の整備に関するアンケート結果

(単位：%)



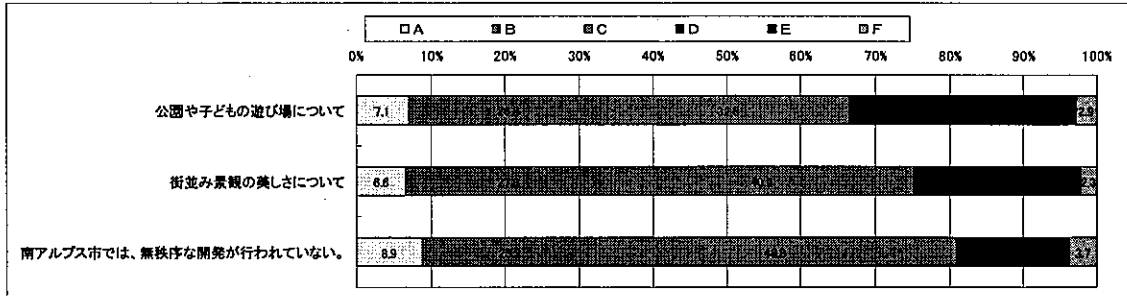
河川改良や水路整備に取り組んできた結果、“住んでいる地域は、水害の心配がない”と感じている回答は55.9%で、不安を感じている回答の17.5%を大きく上回っている。

実際、ここ数年間において大きな水害が発生していないこともあるが、言い換えれば、河川などの改良整備が功を奏したものと推察する。

### 3 - 3 都市空間の整備

図表V - 13 都市空間の整備に関するアンケート結果

(単位：%)



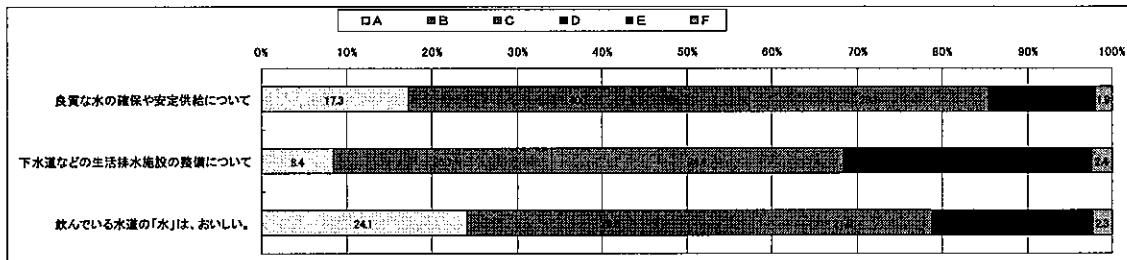
『都市空間の整備について』は、“公園や子どもの遊び場について” “街並み景観の美しさについて” “無秩序な開発が行なわれていない” の質問に対し、3 割以上が肯定的な解答で、いずれも否定的な回答を上回っている。

本市の美しい景観を「あたり前の風景」と感じている市民が多いことから、中立的な回答が多くなっているものと推察する。

### 3 - 4 上下水道の整備

図表V - 14 上下水道の整備に関するアンケート結果

(単位：%)



本市の上水道関係の施設については、全てを企業局で一括管理することにより安心・安全な水の安定供給が図られるようになったため、満足傾向の回答が多くなっていると推察する。

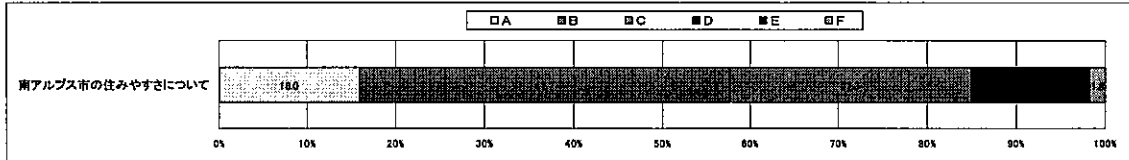
一方、下水道関係については、負担金などの割高感や未整備地区があったため、これまで不満足傾向の回答の割合が多かったが、計画的な事業の推進により、今回初めて不満足傾向を満足傾向が上回ることとなった。



### 3 - 5 市街地・住環境の整備

図表V - 15 市街地・住環境の整備に関するアンケート結果

(単位：％)



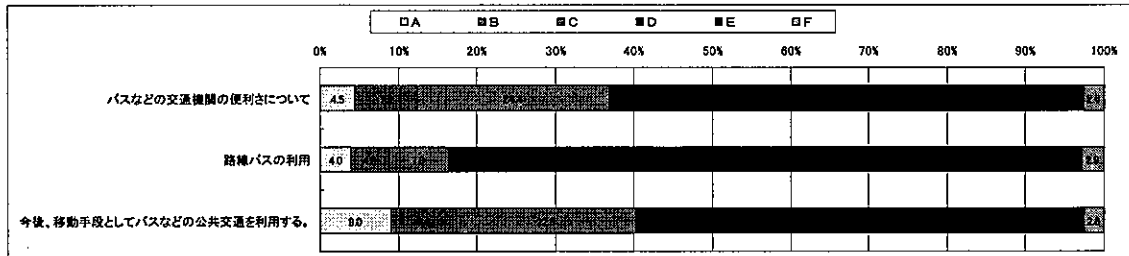
“南アルプス市の住みやすさについて”は、第1回調査時から満足傾向が50%以上と比較的高く、今回の調査においても57.7%となっている。

南アルプス連峰を含めた自然の豊かさに加え、道路網の充実や買い物の便利さなど生活環境が整備されていることが、この質問に対する満足傾向を高くしているものと推察する。

### 3 - 6 公共交通の整備

図表V - 16 公共交通の整備に関するアンケート結果

(単位：％)



軌道系の公共交通がない本市の公共交通に対する市民の満足度は、第1回目の調査から低く、不満足傾向の回答が60%前後を占めている。

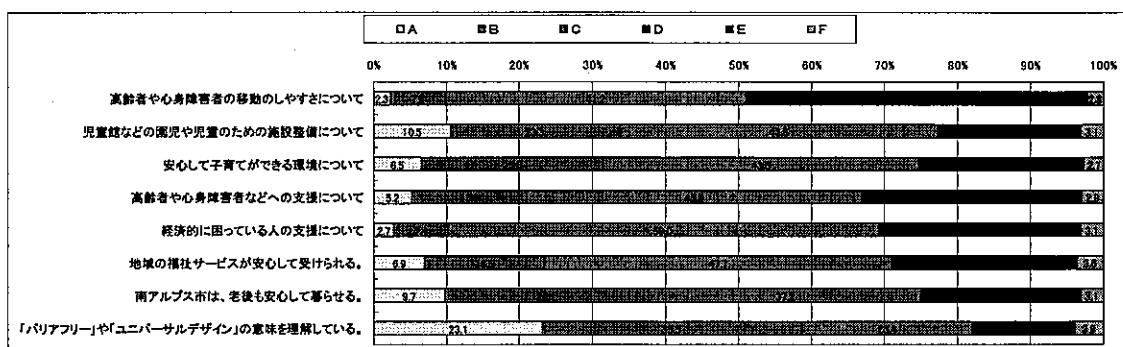
『公共交通の整備』については、町村合併前からの懸案事項でもあり、市民生活の利便性を高めるためには必要な施策であるが、予算的なことを考えると絶対的な対策がなく、なかなか満足度を引き上げることができない状態である。

## 基本政策4 快適で心のかよあう都市づくりについて

### 4 - 1 社会福祉の充実

図表V - 17 社会福祉の充実に関するアンケート結果

(単位：%)



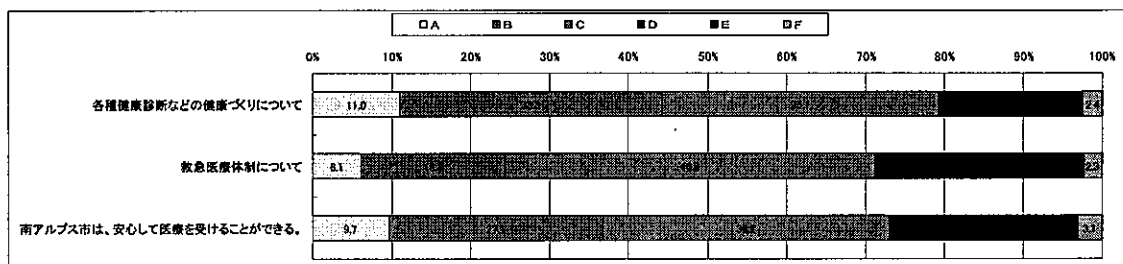
『社会福祉の充実』の中で“南アルプス市は、老後も安心して暮らせる”については、肯定的な回答が37.8%で否定的な回答の21.9%を上回っているが、“高齢者や心身障害者の移動のしやすさについて”や“高齢者や心身障害者などへの支援について”“地域の福祉サービスが安心して受けられる。”は、肯定的な回答よりも否定的な回答の割合が高くなっている。

全体的な社会福祉施策に対しては満足しているものの、高齢者福祉施策や障害者福祉施策など部門別の施策になると不満足傾向の回答が多くなっている。

### 4 - 2 健康づくりの推進

図表V - 18 健康づくりの推進に関するアンケート結果

(単位：%)



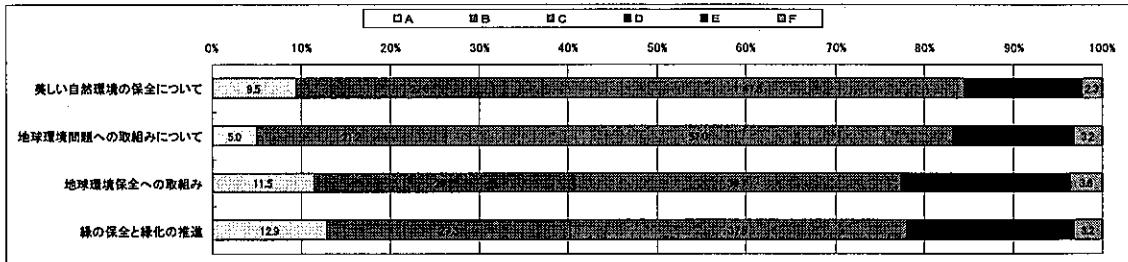
“各種健康診断などの健康づくりについて”の満足度傾向は44.3%で不満足傾向の18.3%を大きく上回っていることから、健康増進計画に基づいた各種事業の実施が充実している結果と推察する。

一方、“救急医療体制について”や“南アルプス市は、安心して医療を受けることができる”に対する肯定的な回答と否定的な回答の差は少なく、これは、公営(市営)の総合病院施設が市内にないことから、市民が不安に思っているものと推察する。

#### 4 - 3 自然環境の保全と活用

図表V - 19 自然環境の保全と活用に関するアンケート結果

(単位：%)



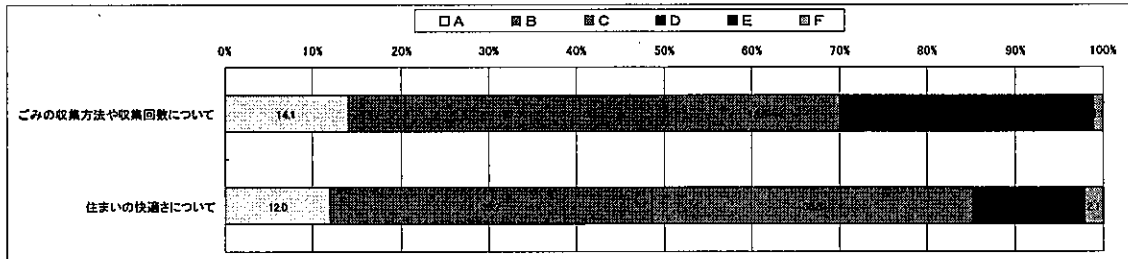
近年、自然環境の保全や省エネ対策などへの関心が高まっていることから、各質問において肯定的な回答が否定的な回答を上回ったものと推察する。

しかし、“地球環境問題への取組みについて”は、個人レベルの域を超えている質問内容のため、中立的な回答が半数以上を占めたと推察する。

#### 4 - 4 快適生活環境の整備

図表V - 20 快適生活環境の整備に関するアンケート結果

(単位：%)



“ごみの収集方法や収集回数について”と“住まいの快適さについて”は、両方とも満足傾向の回答が50.0%前後と高い数値となっている。

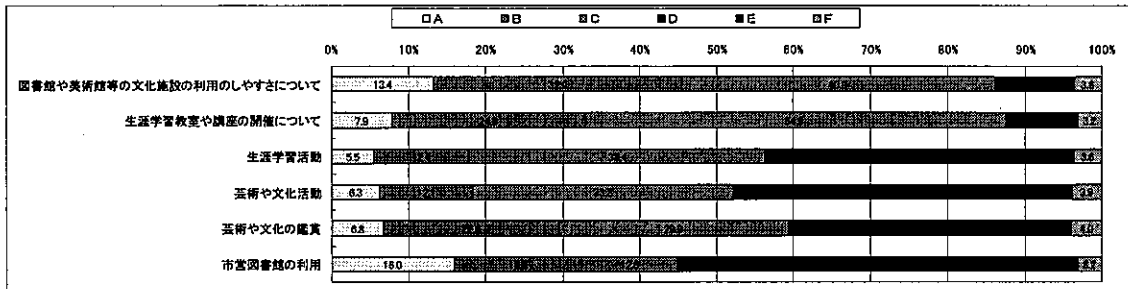
ゴミの収集については、各自治会の管理・運営に頼る部分が大きく、このため成果が上がっているが、その反面、自治会に加入しない市民のゴミ収集方法などが課題となっている。

基本政策5 個性と文化を育む都市づくりについて

5 - 1 生涯学習ネットワークの整備充実

図表V - 21 生涯学習ネットワークの整備充実に関するアンケート結果

(単位：%)

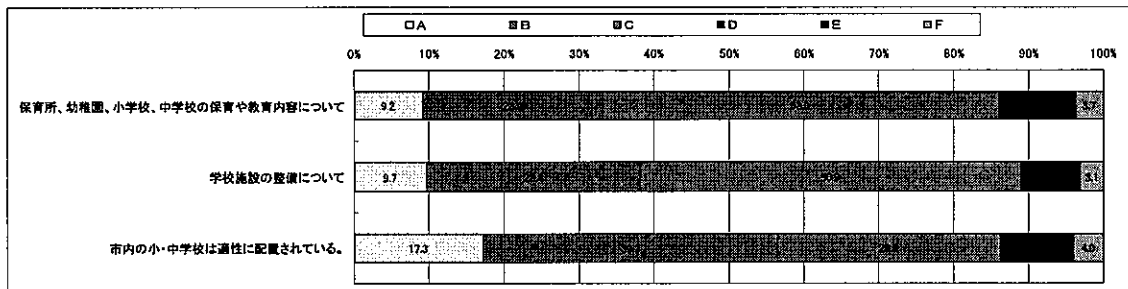


“図書館や美術館等の文化施設の利用のしやすさについて”では、満足傾向が45.4%で不満傾向の10.2%を大きく上回っているが、実際の利用状況を見ると、“芸術や文化の鑑賞”“市営図書館の利用”における肯定的な回答が30%前後と低くなり、施設などの利用者及び文化活動の実践者が固定化しているものと推察する。

5 - 2 学校教育の充実

図表V - 22 学校教育の充実に関するアンケート結果

(単位：%)



『学校教育の充実』に関係する三つの質問とも肯定的な回答の割合が高く、否定的な回答は10%程度となっている。

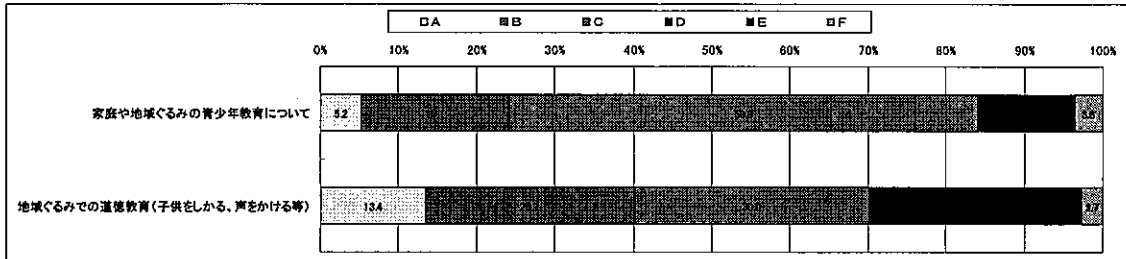
教育内容については、きめ細かな教育の実施の成果が表れ、“学校施設の整備について”は、各小中学校の耐震補強工事の実施による安心感が表れたものと推察する。

また、現状の小中学校の配置について不満傾向の回答の割合が10%未満であることを考えると、学校施設等の再配置については熟慮した計画が必要になると思われる。

### 5 - 3 青少年の健全育成

図表V - 23 青少年の健全育成に関するアンケート結果

(単位：%)



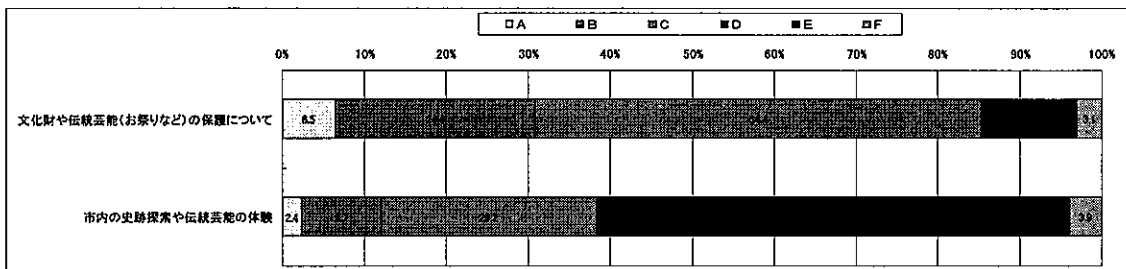
“家庭や地域ぐるみの青少年教育について”で満足傾向の回答は、前回同様に20%台の数値となっているが、不満傾向の回答が減少していることを考えると、この施策に関する事業の成果が表れてきたものと推察する。

また、今回初めて設定した“地域ぐるみでの道徳教育”について、「声かけ運動」などを実践していると回答した割合が40%と比較的高い結果であった。

### 5 - 4 文化づくりの推進

図表V - 24 文化づくりの推進に関するアンケート結果

(単位：%)

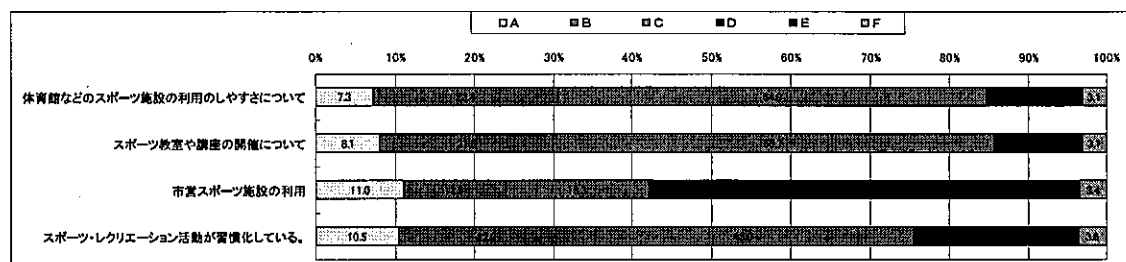


“文化財や伝統芸能の保護について”で中立的な回答が54.4%、“市内の史跡探索や伝統芸能の体験”で実践したことがないと回答した割合が57.8%で、貴重な文化財に対する市民の関心度は、あまり高くないものと推察する。

## 5 - 5 スポーツ・レクリエーションの振興

図表V - 25 スポーツ・レクリエーションの振興に関するアンケート結果

(単位：%)



“体育館などのスポーツ施設の利用のしやすさについて”では、満足傾向が30.7%で不満傾向の12.3%を大きく上回っているが、実際の利用状況を見ると、“市営スポーツ施設の利用”の肯定的な回答が23.9%で、利用していないと回答した割合が54.5%と半数以上を占めている。

また、“スポーツ教室や講座の開催について”“スポーツ教室や講座の開催について”の肯定的な回答も30%前後という結果をみると『生涯学習ネットワークの整備充実』と同様で、利用者や運動を行なっている者が固定化されている傾向にもと推察する。

